

# な か ま

発行  
佐倉市立中央公民館  
編集  
な か ま 編 集 委 員 会  
〒285-0025  
佐倉市 鍋木町 198-3  
電話 (043)485-1801

押し花作り ----- 伊藤和宏  
江戸のリサイクル ----- 永見 一

馬渡の小学「経塚」----- 三田俊郎  
画僧・青山了泰 ----- 村田長保

## 小学生の頃

### 大蔵康次

西船橋駅はJR各線と東京メトロ等が乗り入れています。駅舎の改装工事が終わり、店舗の数も増えて明るくなり、賑わいも一段と増したようです。

駅構内と駅前の広場は、60数年前に私が通っていた小学校の広い運動場の一画です。総武線の南側は見渡す限り田圃が広がり、晴れた日には富士山がよく見えました。駅へ来ると当時の風景や出来事がつい昨日の事のように思い出されます。

葛飾小学校。開校は明治25年。生徒数約1500人。今思えば大変なマンモス校ということになりました。正門は千葉街道（14号線）沿いであり、東は船橋、西は下総中山方面から大勢の生徒がゾロゾロと行列をなし、それはそれは壮観といえる朝の光景でした。

歩いて30分程の距離を6年間通っていました。太平洋戦争の戦況が一段と悪化し、B29の飛来を告げる火の見櫓の半鐘に追われて必死に走って帰った事が何度かあります。また、ある晩西の空が真赤になっており、大人達が「東京が空襲だ」と大騒ぎしておりました。

戦後、千葉街道は房総方面への唯一の幹線道路として利用され、牛車やリヤカーが通る中、進駐軍のジープが頻繁に走り抜けて行きました。私達は皆で手を振ってガムや菓子を貰ったりしたものです。

街道から少し北に外れると、松林や畑の多い田舎道がありスイカ、瓜、トマト、秋になると柿を食べる事ができ、いつも空腹な私達にとっては、スリルに富んだ楽しい通学路になっていました。今では、

住宅が建ち並び当時の面影は全くありません。5年生の時、若い女の先生が赴任して来ました。男兄弟だけの私は、美人先生にいつべんに撞れ、必要以上に騒いだり、燥い<sup>はげ</sup>だりして目立ちたがったりしたものです。生徒と相撲をしたりしていた活発な美人先生は現在85歳、早くに御主人を亡くしましたが、二人の男の子を立派に育てあげ、退職後は山登りを趣味にしていました。現在は、三日に一度のペースで御近所の人達を自宅に集めてマージャンを楽しみ、自慢の創作料理を振る舞っておられます。

毎年、先生を中心に駅周辺でクラス会を開き、思い出を語りに老人達が元気に集まります。それは恒例となり、先生と教え子達との古くて永い絆となっております。風景は変わっても私達の結びつきはいつまでも変わりません。

(編集委員)

## 押し花作り

中学生の頃、生物クラブに入り植物採集に熱中していた。一年生の時の担当が生物部の顧問だったのが入部の動機である。日本の植物学の大家で草分け的存在である牧野富太郎先生を尊敬し、本人自身も斯界では有数の植物学者であった先生が、我々を植物狂いにするのにさして時間はかからなかった。

休日になると野冊や胴乱をぶら下げ、近くの野山を駆け回り新種探しに夢中になった。当時は草花を根から掘り出して採集し、新聞紙に挟んですつかり乾燥させた後、「和名、科名、採集日、採集場所、採集者」を書き込んだラベルと共に台紙に貼っていたが、どんなに丁寧にやっても色鮮やかな花は茶褐色に変色してしまつた。

それから7、8年後。変色させずに乾燥させる技術が確

立されたという新聞記事を見たが、既に標本作りから遠ざかつた後であつた。

市民カレッジに入った夏休みのある日、妻の友人の紹介で、「押し花サークル」に体験入会させてもらうことになつた。この会は押し花アートの会で、標本作りとは違つたが、先生に手伝つていただき、何とか一つの作品を完成させることができた。

現在の押し花は乾燥マツトと和紙で急激に水分を抜き取り、花の色が美しいまま残すことができる。以来、押し花を作ることが楽しくて現在も続けている。

元来、芸術的センスとか絵心とは無縁な野暮人間だが、山を歩き美しい花を見るのが好きだし、出歩けなくなつても身近な花を押し楽しんで一つの趣味として続けようと思つている。

(宮前 伊藤和宏)

## 馬渡の小字「経塚」

私は地名の会の新入会員です。過去の活動記録を読み、この会に入会しました。主な活動は歴史的に出てくる佐倉地域の古い地名、小字の由来を調べています。

私としては、とりあえず地図と風土記と関連した記事が載つていそうな図書を読んでいます。対象となる地域の現地調査にも出かけています。大いに頼りになるのが長年活動している先輩たちです。

佐倉市馬渡地区に今はない経塚きやうづかという小字がありました。位置は鹿島川の南の丘の上。元々鬱蒼とした里山を開拓開墾して現状は畑と住宅です。変わった小字名だと思いましたが、馬渡風土記には過去の調査時に5つの塚があつたという記述がありますが、現状は個人の敷地です。塚の形、出土品等を検討すれば「経」の入つた容器などがあ

つたのでしようか。どんな塚か興味のわくところですよ。

先日八街図書館で見た、八街町教育委員会編集の『八街の散歩道』の説明では、「八街町八街ろ一番地 佐倉市岩富と境を接する所、武藤常吉氏宅の北側に藪のように見える塚が経塚である」とあります。「言い伝えによればこれは所謂長享二年(一四八八)の七里法華の改宗のとき、岩富の興勝山長福寺が真言宗から日蓮宗に改宗するため、従来の真言の経巻や什物を埋めたものといわれている」とあります。

馬渡の塚は直径6mの小規模な古墳群となつていて、ところから経塚に見立てたものか、経典があつたものか。私は、謎は解けなくとも地域の歴史に少し触れた気がして楽しかった。



(城 三田俊郎)

## 江戸のリサイクル

江戸っ子は尻に気を使ったそう。火急の時に走りやすいように、着物の背後の裾を帯に押し込む。丸見えになつてしまうので、尻をいつもきれいにしよう心がけたという。当然ふんどしも他人に笑われないように、少々無理をしてでも常に高級品を身に付けていた。普段は見えないところでもお洒落を決め込むのが江戸っ子の心意気だ。

江戸が清潔な都市だったのは、集められた排せつ物が肥料として周辺農村にすぐ買い取られたからだ。これが当時大へんな利権で争いにも発展したこともあったという。今日のように化学肥料などなく、下肥が唯一のものであった。物の豊かな今の時代と違い先人は何一つ無駄にすることもなく環境を考へリサイクルの実施をしていたのは見上げたものである。「家主は

長屋の肥で餅をつき」と川柳にあるように、歳末には廁の糞尿を一年間ためた金子で長屋の行事にあてたのだ。市井に生きる人々の生活がうかがえる。

戦后東京の近郊でも農道脇に肥だめがあり、五分の一にうすめて杓子で散布していた光景を見ることができた。時の為政者が口ざわりの良いことしか言わず、公約を臆面もなく反故にして何んら責任も恥じることもなく、ただ言うだけ、これを菜っ葉の肥やしという。かけ肥（声）だけ。江戸の伊呂波歌留多に「無理が通れば道理が引つ込む」時が過ぎれば忘れっぽい我が民族の気質、最后っ屁をしてあとは野となれでは浮かばれない。なにやら臭ってきた。臭い話で退散退散、。

（上志津 永見 一）



## 画僧・青山了泰

高輪の泉岳寺境内にある「宝物館」に『釋迦八相祇園精舎曼荼羅』という巨きな仏画が展示されている。縦・横三六六十という大作だ。しかも驚かされるのは、その曼荼羅絵の描線全てが経文の「文字」で現されていることだ。虫眼鏡で見れば、全ての線と見えた所が蟻の連なりの様に経文となつているのがわかる。所謂「文字絵」だ。

そして更にびっくりさせられたのが、その作者（画僧）が佐倉市にある嶺南寺の住職であったことだ。青山了泰がその名で、確かに佐倉市新町の嶺南寺には「前永平当時五世 青山了泰大和尚禅師（表）享保二十卯年十一月十八日（裏）」と記された位牌が残っている。

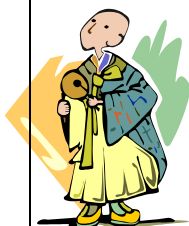
泉岳寺の資料に依ると件の曼荼羅を完成させたのが「享保十四年 了泰八十歳」

というから、彼の享年は八十六歳ということになる。

『古今佐倉真佐子』の「嶺南寺」の項にも「此寺がうかう付たる和尚、越前の糸い平寺の役者也。此寺へ入院して後隠居す。経文にてごくざいしき（ごくさいしき）にて仏像書事名人也。沢山寺へも認結構成る表具にして宝物に納。皆絵の具を以書わくる。云々」と書かれていた。恐らくこの「和尚」が青山了泰であろう。

今や嶺南寺にも先の位牌と、本堂裏に無縁仏のように傾いていた玉子型の石墓らしき物しか残っていない。高さ五十センチ程で、僅かに「五世」という文字しか読めない。佐倉市ゆかりの画僧がすっかり忘れ去られている。残念だ。

（新白井田 村田長保）



## 5月の黒板

# 『なかま』の原稿を募集しています！

『なかま』の2ページと3ページは佐倉市民の皆さんから投稿いた

だいた記事を掲載しております。

『なかま』の原稿は、自由テーマを原則としています。「出会いと別れ」、「旅の思い出」、「祭り」、「私のふるさと」、「私の健康法」など何でも構いません。また、日常での出来事で発見したこと、気付いたこと、経験や感想などもご随意にお書きください。

原稿の字数は、650字（13字×50行）以内です。また、掲載するにあたり常用漢字への変更、句読点等の修正や語句の訂正をさせていただくことがあります。

問い合わせ先

佐倉市立中央公民館 TEL 043 - 485 - 1801

〒285 - 0025 佐倉市錦木町198 - 3

### さくら道

毎年開催される「お祭り広場」でのチューリップ祭りのたびに思い起こされる情景があります。

私が新入社員として、昭和三十六年から約三年間、新潟市の阿賀野川河口のある会社の工場に勤務していた当時のことです。近くの通称「飛行場通り」沿いに一面にチューリップ畑があり、毎年球根を採取する為に刈り取られた

花の首が、色毎にピラミッド

の形に十センチの高さに積み上げられている壮観な光景に強く心を打たれました。しかし、残念な事には、この光景は昭和五十年頃には、宅地開発で姿を消してしまつたそうです。

もし、佐倉市の「佐倉ふるさと広場」に、この花のピラミッドが再現されると、チューリップ祭りに一段と華を添える事になるだろうと思われ  
てなりません。（服部一宏）

### あながき

若葉の美しい清々すがすがしさを感じる季節となりました。今年の連休は、震災の影響でいつもと違う過ごし方をされる方もいらつしやるのではないでしようか。どのような過ごし方をされても、家族のふれあいの時間を大切にして楽しく過ごされる事と思います。

さて、今月ご投稿頂きました中で、サークルに入会され、

趣味や生きがいを見つけたら投稿文には、仲間との楽しい交流を感じました。

また、高輪泉岳寺所蔵、釈迦八相祇園精舎曼荼羅（港区指定有形文化財）は、佐倉市新町の嶺南寺住職青山了泰が経文の文字で描いた絵画であることを調べられたのには敬服です。

江戸のリサイクルでは、江戸っ子の心意気を楽しく読ませて頂きました。

皆様方のご投稿をお待ちしております。  
（六角学）